



令和2年度入学式式辞

4月7日（火）

下妻第一高等学校の象徴ともいえる桜の花が、今年も見事に咲き誇り、春の訪れを告げています。

本日、ここに、令和2年度入学式を挙行できますことを、関係されるすべての方々に深く感謝申し上げます。

ただ今、入学を許可した二八〇名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんの入学を、心より歓迎いたします。

また、保護者の皆様にも、心からお祝い申し上げます。

新入生の皆さんは、下妻一高生になったという喜びと希望に満ち溢れていることと思います。皆さんが今ここにいるのは、今まで学習や運動に積極的に取り組み、本校への進学を目指して、厳しい環境の中で困難を乗り越えてきた結果です。大きな試練を乗り越えたことに自信と誇りを持って下さい。また、これまで皆さんを支え、応援してくれたご家族を始め、ご指導を頂いた先生方などの存在も大きな力となったことでしょう。

本校は、1897年、明治30年4月に創立された茨城県尋常中学校下妻分校を起源とし、創立123年を迎えた歴史と伝統を誇る学校です。

本校が「為桜学園」を名乗るのは、幕末の水戸藩士である藤田東湖の漢詩、「文天祥正気の歌に和す」の一節「発いては万朶の桜と為る」にちなみ、理想を掲げて自分を高めようという生徒の心意気と、見事な花を咲かせ、人々を感動させる桜の姿を重ね合わせています。

この為桜の精神は絶えることなく受け継がれ、本校が大切にしている「文武不岐」を実践し、地域社会はもとより、国の内外を問わず、幅広く活躍している多くの卒業生を生んでいます。

下妻一高は望ましい人格形成を目指す進学校です。皆さんを鍛え、育て、成長させるための様々な仕組みがあります。どのように過ごすかによって、未来は大きく変わっていきます。話題になった本の題名を借りれば



「君たちはどう生きるか」という問いかけをしたいと思います。三月までは下妻一高に入学することが目標だったと思いますが、今は、新たな出発点に立ったのです。

この問いかけを一人で解くではありません。皆さんの周りには苦難を共に乗り越えていく友人や先生方がいます。学校生活の中で切磋琢磨しながら、思いやりや友情を育て下さい。逞しくしなやかに困難を超えて、一步一步高い山に登るように、下妻一高での三年間を過ごした先に見えてくる風景を皆さんと一緒に見ることが我々教職員も楽しみにしています。

下妻一高の教育方針を校訓5章にて示します。

- 心身を鍛練し、堅忍不拔の志気を修養すべし。
- 光陰を惜しみ、労働を辞せず、学習の務を尽くすべし。
- 質素儉約を守るべし。
- 長上を敬し、下輩を愛し、和樂を貴ぶべし。
- 規律を重んじ、以て公共の徳義を立つべし。

さらにこの内容を要約した綱領三項目を「誠実」「剛健」「進取」と定めています。

堅苦しい表現かもしれませんが、これらを実行できるよう、日々学校生活に励んで下さい。

保護者の皆様にも、改めてお祝い申し上げます。

お子様の本校での三年間は、少年期から青年期への移行期にあたり、人生の中で最も多感な時期であると共に、自立した人間へと成長し、将来の進路希望を実現していく上でも、重要な時期であります。

その成長過程においては、迷い、悩み、苦しむこともあるかと存じますが、ご家庭と学校が、お互いの理解と信頼のもと、協力して生徒諸君を支援していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

新入生の皆さん、いよいよ下妻一高での高校生活が始まります。一日一日を大切に、自らの可能性を追求してください。三年後、自分に向かって「本当によく頑張ったな。」と思えるような高校生活を送ってください。それが下妻一高の発展にも繋がっていきます。新入生の皆さんにとって、実り多い、充実した三年間になりますことを期待すると共に、参加された皆様のご健勝を祈念し、式辞といたします。



令和二年四月七日

茨城県立下妻第一高等学校長 細野晃一